

随想

どきげつらい

津山線上下りの車窓にうつる風景を、ぼんやりと眺めながらいると、或は三文小説に熱中していると、しばしば知人に出会い「ヤア」と肩をたたかれる。

最近では「どちらへ」と聞く人は大分少なくなって「お帰りですか」と尋ねる。

岡山行の列車でも津山行の列車でも私にとっては「お帰りですか」が通用するワイと苦笑する。

某日某人が「どきげつらい」ですかと尋ねたが、最初この某人の発音が何を意味するものであるのか、その了解にとまどったものである。あれこれ考えるに及んで「ハハン」と合点、うまいことを言うわいと一人感心したものだった。

某人の問いに答えようとして口を開きかけたときには、すでに某人の話題は「どきげつらい」を通りこしていた。

某人何と思ったことやら。感度の鈍い者よと腹中アザケリを催したであろう。

土曜日の津山線岡山行に乗っていたので、某人はてつきり家に帰ると判断して土帰ときたわけである。

何れ日曜日の津山行列車に乗るほどの馬鹿ではあるまいとみて、月来と続け「どきげつらい」ですかと尋ねたわけである。

此の言葉は誰が何時から言い出したのか知らない。少なくとも私自身が此の言葉を耳にしたのは此の時が最初であった。

その昔、月月火水木金金という戦時休制用語が巷に流行したが其れと類をなすものであろうか。若しそうであるならば、戦後10年、最早終戦当時の世相は一変し、数多くの物事がアメリカナイズされた様な御時勢で、原子力の恐怖にふるえながらも平和な生活の明け暮れの此の頃、土帰月来の生活は全く野暮めいたものかも知れないと考えないでもない。

しかしながら、あれこれ聞いてみれば案外に、どきげつら的な生活を送っている人がいるようである。

戦後という言葉は消失したと、ホワイトブックに書いてあるそうだが、住宅に関する限り此の言葉を清拭

するには早いようである。

政治の貧困の故にか、市井の片隅に住む小市民の苦悩はまだまだ続きそうである。

どきげつらいを知る友は、きまって「御不自由ですナー」と同情心を寄せてくれる。そう言われて、あれこれ不自由の種を探してみる。しかしマア夏の洗濯位が「御不自由ですナー」の友の言葉に甘えてみたくなる。

しかし新調のナイロンシャツは結構洗濯の簡易化に役立つものである。

むしろ1,500円のシャツ代が月給袋から消えてゆくのが不自由である。

ヒステリーがかった女房の声に追い廻される心配は先ず無い。

誠に暢気に、自由な自分の時間が酔魔と睡魔をウェルカムして楽しいものである。

最早このようになれば宿六の存在価値は暴落し、ミセスフクシマの日曜日の食卓の話題に十分かも知れない。

あえて不自由をあげれば、3年前まで顔見知りして逃げかくれていた子供が、最近つきまとう仕草に、げつらいの足が重くなることであらうか。(佛)